

言語活動の充実と向上を図り，一人一人が主体的に活動できる授業づくり ～バレーボールの授業を通して～

千葉県成田市立成田中学校 教諭 戸谷祐一

1 はじめに

学習指導要領において，保健体育科では，「心と体を一体としてとらえ，運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して，生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り，明るく豊かな生活を営む態度を育てる。」ことを目標としている。「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力」とは，それぞれの運動が有する特性や魅力に応じて，その楽しさや喜びを味わおうとするとともに，公正に取り組む，互いに協力する，自己の責任を果たす，参画するなどの意欲や健康・安全への態度，運動を合理的に実践するための運動の技能や知識，それらを運動実践に活用するなどの思考力，判断力などを指している。これらの資質や能力を育てるためには，体を動かすことが，情緒面や知的な発育を促し集団的活動や身体表現などを通じてコミュニケーション能力を育成することとある。

体育学習における教え合い，話し合い活動を充実させることから，表現力を身につけ，自分や他者の感情や思いを受け止めることができるなどコミュニケーション能力が高まり，生徒同士のかかわりが豊かになれば，意欲や技能の向上が図れ，生涯にわたって運動に親しむことにつながるのではないかと考えた。

2 研究のねらい

バレーボールの授業を通して，グループ分けを工夫することにより，教え合い，話し合い活動を充実させ，「やろう」とする意欲を育て，技能の向上を図る。

3 研究の概要

(1) グループを能力別（グループの技能レベルを同質）にすることにより，教え合い，話し合い活動が充実し，個々の技能習得への取り組みが活発になるであろう。

① 集団競技のグループ編成は異質集団での取り組みがほとんどであるが，授業の前半はあえて同質集団に分けることにより，得意なグループは，できることをより高め増やそうとし，不得意なグループは，できないことへの劣等感や自信のなさが薄まり，自分から参加する意欲が高められ，教え合い，話し合い活動が充実することから個々の技能が向上するであろうと考えた。

(2) ゲームスコアを工夫し，つけさせることにより，グループでの一人一人の課題が明確になり，技能を高めるため，より主体的に活動するであろう。

① ゲームスコアを得点の推移だけでなく，どんなプレーで得点，失点したかを記せるよう工夫することから，グループでの課題が明確になり，自分たちを容易に振り返ることができる。そのことから，話し合い活動が活発になる中で，個人やグループでの技能を高めるため主体的に活動するであろうと考えた。

4 研究の実践

(1) 能力別グループ

本研究では、単元のはじめに、技能テストの計測を行うこととした。種目は、1分間で行う一人アンダーハンドパス、オーバーハンドパス、アタックの3種目を設定した。この、「技能テスト」の結果から「能力別グループ」に上・中・下位に分けることとした。

単元の3時間目～6時間目では、各能力別グループによるバドミントンコートでのゲームを行うこととした。能力別によりボールの種類やルールやを変えることにより、個々の課題把握や、自分に合った課題設定が容易にできるようになり、技能習得への取り組みがより活発になるのではないかと考えた。

(2) 教え合い・話し合い活動

本研究では単元の前半を能力別グループ、後半を異質グループに分け、ゲームを行う設定をした。前半では能力別グループでのゲームの後に、課題把握のための話し合いを行う時間を設けた。後半の異質グループではゲームの前に、チームの作戦を考える時間を設定した。話し合い活動の時間を設け、教師主導の説明だけでなく、生徒に補足説明をさせるようにした。生徒自身がその技を身につけ、理解していなければ、当然のことながら、他の生徒へわかりやすく説明することができない。自分が身につけた技能を自分なりの言葉でみんなに説明することで、説明した生徒本人も、より理解を深めることになり生徒同士による学び合いの活動にもつながっていくと考えた。

(3) ゲームスコアカードの工夫

学習カードを使うことによりゲームスコアを得点の推移だけでなく、誰が、どんなプレーで得点、失点したかを記せるよう工夫した。このことにより、個人やグループでの課題が明確になり、自分たちを容易に振り返ることができると考えた。話し合い活動が活発になる中で、個人やグループでの技能を高めるため主体的に活動するであろうと考えた。

5 研究のまとめ

(1) 研究の実践について結果と考察

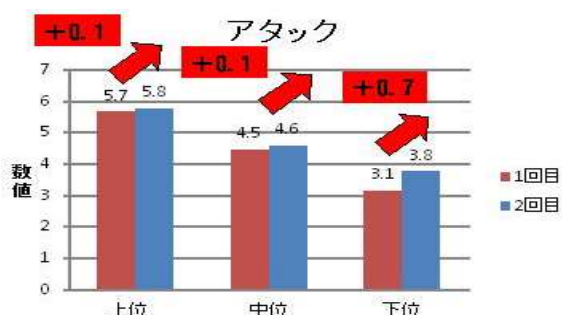
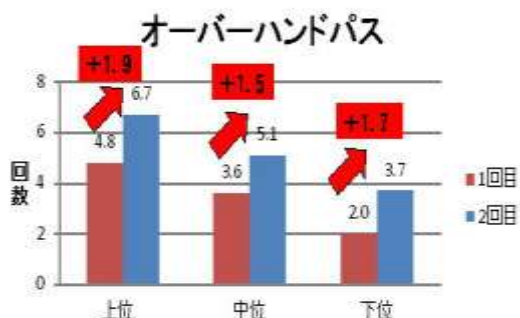
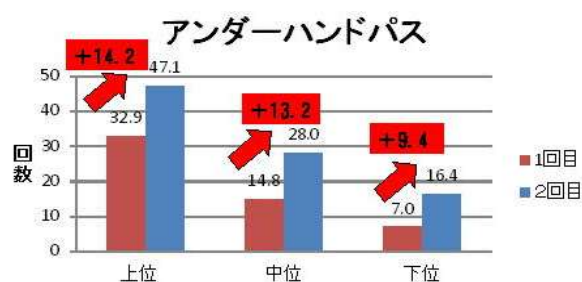
①技能の変化

【結果】

全体で見ると、アンダーハンドパスの回数は一人あたり、12.5回向上した。アンダーハンドパスの一人あたりの回数は1.8回向上した。上位・中位・下位に見た一人あたりの記録の伸びは、以下の通りであった。下位の生徒のアタックの記録では大きな伸びが見られた。

【考察】

指導前後の各種目の結果を比較してみると、上位・中位・下位とも結果が伸びたことに加え、指導前後で有意な差が見られたことから、「能力別グループ」に分けたことにより、技能向上に効果があったと思われる。特に、下位の生徒の伸びが見られたことから、苦手に感じている生徒により効果があることが推察される。



②教え合い・話し合い活動・ゲームスコアカードの工夫による変化

【結果】

検証授業後、生徒に対して感想や意見を調査したところ、「自分たちの失点の原因が分かったので、練習の計画を立てやすくなった」「ゲームスコアをつけたら作戦会議が進めやすかった」「かけ声がかけやすくなった」などの回答があった。

【考察】

生徒の意見や感想（複数回答あり）

- | | |
|----------------|-------|
| ①自分たちの欠点分かった | 60.8% |
| ②練習計画を立てやすくなった | 44.2% |
| ③お互いの弱点分かった。 | 15.3% |
| ④声かけができるようになった | 5.4% |
| ⑤ルール分かった | 2.3% |

指導後のアンケートの結果からも見られるように、グループや個人での課題が明確になり、容易に振り返ることができるようになったと考えられる。このことから、話し合い活動が活発になり、生徒の意欲向上に成果がみられたと考えられる。

(2) 全体での成果と課題（○成果 ●課題）

- 授業の最初から終わりまでグループ活動させることでチームの団結が深まり、一人一人のパスをつなげる意識が強くなった。
- 能力別グループに分けることにより話し合い活動が積極的に行われるようになった。
- 能力別グループに分けることにより下位の生徒たちが意欲的に取り組む姿が見られた。
- 上位の生徒たちが意欲的に下位の生徒たちに教える姿がみられた。

- ゲームスコアをつけることにより、各グループでの練習計画が明確になり、意欲的に練習に取り組むことができた。
- 能力別グループ練習において、下位の生徒たちの練習メニューが単調になる傾向があった。
- 話し合い活動の時間を設けることにより、課題別練習の時間が短くなってしまった。
- クラスによって同質グループと異質グループに分けることにより、さらなる比較ができたのではないかと思われる。
- ゲームスコアをつける生徒によって、基準が変わってしまい課題が明確にならないことがあった。

(3) まとめ

本研究は、学習意欲や知識の獲得、技能の習得などを身につけさせることを狙いとした。「能力別グループ」に分けることにより技能の面で、多くの生徒たちがバレーボールの個人スキルを向上させ、実際のゲームにおいても、最後のリーグ戦ではレシーブやコート内での触球数が高まり、ラリー回数の向上につながっていたと感じている。しかし、いまだ全ての生徒がバレーボール固有のおもしろさである、三段攻撃を使って最終的にスパイクで攻撃したりといったゲームパフォーマンスを味わえるまでにつながるまでには至らなかった現実もあった。

また、「ゲームスコアカード」の活用や、「話し合い」や「教え合い」などの活動を取り入れることにより仲間を尊重するなどの意識が高まり「自分のアドバイスを聞いてくれた」「間違っても自信が持てた」など、仲間と話すことに対する自信や安心感が生まれ、学習に対する意欲の向上につながったと感じる。しかし、話し合い活動による知識の獲得や技能の習得については十分な検証を得ることはできなかった。今後は、話し合い活動における言語活動を充実させることで、知識の獲得や技能の習得につながるような手立てや支援などを検証していきたいと考えている。

このような課題を解決することは学習指導要領の「言語活動を充実させることは、思考力・判断力・表現力等をはぐくむための重要な活動であり、確かな学力の充実はもとより「生きる力」をはぐくむことにもつながると考えられる。」という「生きる力」の育成にもつながることでありと痛感した。